

明治期（創立期）～大正期～昭和（戦中まで）の年表

1 明治期（創立期）

本校創立期から、大正期までの30年ほどの出来事を、「相中相高八十年」と一部「相中相高百年」から、自分の視点だけでピックアップしてきた。まとめていると、教育も、正に、時代の流れにのって浮かんでいることを実感してきた。読んでみると、歴史の教科書では得られない学校現場や生徒の行動から、歴史の実体がひしひしと感じられてくる。

ここでは、この間の世界や日本の歴史の流れを、一年一行で、俯瞰しようと思う。ただし、これも独断と偏見での選択である。

江戸時代の終盤から、日本はやっと世界に門戸を開き始めた。それ以前から、西欧では、蒸気機関の発明により強力な動力源が生まれ、産業革命がおこり、大量生産できる工業社会へと変化、蒸気船も造られ、当初、スペインやオランダなどが海洋進出し、世界各地に植民地をつくっていた。

次に台頭してきたイギリスやアメリカは、その植民地を奪い返していく。そのような構図が19世紀終盤であるように見られる。

同時に、19世紀中盤に、ダイナマイトが発明され、その驚異的な爆発力を、時の為政者は、直ちに征服するために使い、戦いの様相は一変していく。

1894(明 27)	日清戦争(7月～)	無線通信実験成功	
1895(明 28)	日清戦争(～4月)	X線発見	
1896(明 29)	第1回アテネオリンピック	放射能の発見	明治三陸大津波
1897(明 30)		無線電信の実験成功	陰極線管発明
1898(明 31)	アメリカ-スペイン戦争	ラジウムの発見	常磐線全線開通 本校創立
1899(明 32)	南アフリカ戦争	フィリピン-アメリカ戦争(～1902)	
1900(明 33)	義和団事変	パリ万国博覧会	量子仮説
1901(明 34)	第1回ノーベル賞		福島県に初めて自転車
1902(明 35)			東北地方凶作
1903(明 36)		ライト兄弟動力初飛行	馬城会結成
1904(明 37)	日露戦争(2月～)	真空管発明	
1905(明 38)	日露戦争(～4月)	特殊相対性理論	東北飢饉
1906(明 39)			東北地方凶作
1907(明 40)		相馬女子技芸学校(現相馬東高)開校	
1908(明 41)		世界初の合成樹脂(ベークライト)	校歌制定
1909(明 42)			中村町に電話開通
1910(明 43)			
1911(明 44)	辛亥革命	原子核の存在証明	校舎内に電燈灯る
1912(明 45)	中華民国成立		